

3

A long time ago, there lived a young woman in a village. She lived very lonely, sending her prayers to God everyday in the hope for a child.

One night, maybe her wish had been received by God, because he had appeared in her dream.

The God gave her a flower seed:

“Grow this seed with care. Something incredible will happen.”

The next morning, when she woke up she felt the seed in her hand.

Soon after, she planted the seed in her garden and gave water everyday.



“Oh? What are you doing in front of my house?”

Someone suddenly asked Thumbelina a question from behind her, and when she turned around there stood an old mouse lady. The hole was the entrance of their house.

“Hi, could you please let me stay here for just one night?”

“Oh I feel sorry for you. You seem hungry too. C’mon, get inside.”

The old mouse lady invited Thumbelina into her house.

Thumbelina warmed herself up in front of the fireplace and got served plenty of food which made her very full. Then, she lied down on the straw bed and went to sleep.



むかし、ある むらに、ひとりの わかい じょせいが
すんでいました。ひとりぼっちだった かのじょは、
こどもが ほしいと、まいにち かみさまに
おいのりを していました。

そのかのじょの ねがいが ききいれたのか、あるばん、
かのじょの ゆめの なかに、かみさまが あらわれました。

かみさまは かのじょに、ひとつぶの『はなの たね』を
あたえました。

『このたねを まいて、たいせつに そだてなさい。
きっと すばらしいことが おこりますよ』

よくあさ、めをさました かのじょの てには、
しっかりと、はなの たねが にぎられていました。
かのじょは さっそく、たねを にわに うえて、
まいにち みずをやり、だいじに そだてました。



はるに になると、たねから めがでて、やがて、
あかい つぼみが ひとつできました。

かのじよは つぼみに かおを ちかづけて、くちづけを
しました。すると どうでしょう。つぼみが ゆっくりと
ひらきはじめ、なかに、ちいさな ちいさな おんなのこが
はいていたのです。

おんなのこは、ふつうのひとの おやゆびほどの
おおきさしか なかったので、『おやゆびひめ』と
なづけられました。おやゆびひめは、いつも テーブルの
うえで、にわに やって来た ことりたちと いっしょに、
きれいな こえで うたを うたっていました。

あるひの よる。いつもの ように、おやゆびひめが
ちいさな ベッドで ねむっていると、いっぴきの
ヒキガエルが、まどから いえの なかに しのびこみました。
ヒキガエルは、ひるま きれいな こえで うたっている
おやゆびひめに めをつけて、じぶんの むすこの
およめさんに しようと、さらいにきたのです。
ヒキガエルは、ねむっている おやゆびひめを ベッドごと
まるのみにして、じぶんの すみかへ
つれて行って しまいました。

